

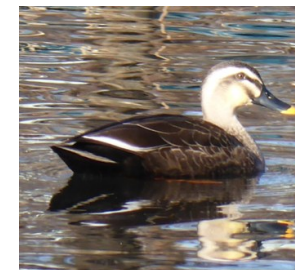
生態園マップ～2025冬編～

＜季節のできごと＞

冬になると、生態園にはたくさんのカルガモがやってきます。下の池やバッファゾーンなどで観察することができます。また、時々園路をお散歩しています。じっくり観察すると、マガモがまぎれていることもあります。羽の色や模様を見比べるのも楽しいですよ。静かな池に浮かぶカモたちの姿は、冬の景色に彩を添えてくれます。



カルガモ



冬になると、一番多く見かけるカモです。大きさは50～60cmです。雌雄同色の全身褐色で、白っぽい顔をしています。くちばしは黒く、先は黄色。目と頬の部分に黒い線があるのも特徴です。脚はオレンジ色で、水辺を歩く姿がとても可愛いです。雑食性で水草や草の葉、種子をメインに昆虫や小魚、小さな甲殻類など動物性の物も食べます。



CESSチャンネル (Youtube)

生態園についても配信中

ハンノキ

ハンノキは湿地や湿原などで生育する、高さ10～20mになる落葉高木です。生態園には、ハンノキがたくさん植えられています。これは、埼玉県の蝶である「ミドリシジミ」をよぶためです。ミドリシジミの幼虫は、ハンノキの葉を食べて成長します。ハンノキは、関東地方では田んぼの境を示す目印や、収穫後のイネを干すはざ掛け用として植えられていましたが、水田や沼地が減ったことで、ハンノキも減り、ミドリシジミの数も少なくなっていました。

ハンノキは、寒い冬の間に花を咲かせます。だらりとさがった雄花の花粉が雌花に運ばれ、次の年の秋に小さい松ぼっくりのような実（果穂）ができ、種を落とします。

通称「ゼフィルス（ギリシャ神話の西風の神に由来）」と名付けられた蝶のグループのミドリシジミ。梅雨のころに見られる美しい蝶です。長年の努力が実ったのか、2020年から生態園でも見かけるようになりました。



初夏から夏の頃



ハンノキの雄花



冬



雌雄同株。雌花は雄花のすぐ下に付き、早春に開花



12～1月頃
果穂は木質化して翌年まで残る



1月下旬～2月頃
枝の先端に下垂する雄花



埼玉県の蝶「ミドリシジミ」



#昆虫図鑑、#野鳥図鑑#花と植物図鑑etc.. CESS研究員等が撮影した美しい写真をご覧ください。



冬の鳥

生態園にはたくさんの鳥がやってきます。鳴き声が聴こえたら、お空や、樹木を見渡してみませんか。冬の時期にしか見ることのできない鳥達に、会えるかもしれません。

シロハラ



ツグミの仲間で、お腹の部分が白く、グレーがかかった茶色い鳥です。実は沢山いますが、木の茂みが好きで、なかなか人前にはでてきません。遠くから、双眼鏡で観察するのがおすすめです。

ツグミ



大きさ24cmほどのやや大きめな冬鳥です。茶色と黒、クリーム色の複雑な模様をしています。両足でびよこんびよこんと飛び跳ねて歩き回り、可愛らしいです。

ジョウビタキ



大きさは15cmほどの小さな冬鳥です。雄は頭部が灰色で、顔は黒く羽には白い斑点があり、下腹部から尾は鮮やかなオレンジ色です。メスは全体的に淡い茶色で、尾のみオレンジ色です。